

大牟田・荒尾地元機関で取り組む炭鉱遺産の工学的調査および模型設計 一万田坑第二堅坑やぐらモニュメント製作プロジェクト

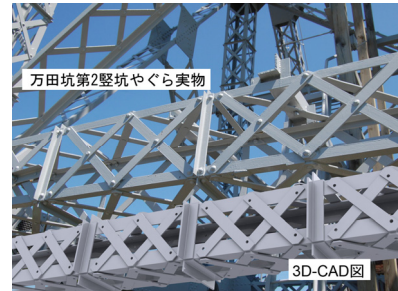
The project of Manda coalmine the 2nd shaft tower model manufacturing

篠崎 烈^{*1}, 田代尚之^{*1}, 中山賢作^{*1}, 石橋大作^{*1}, 石川貴士^{*2}

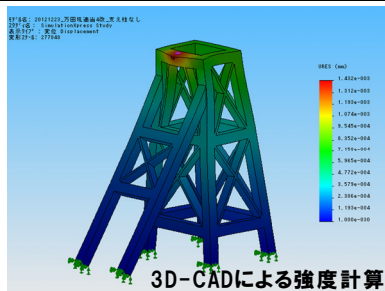
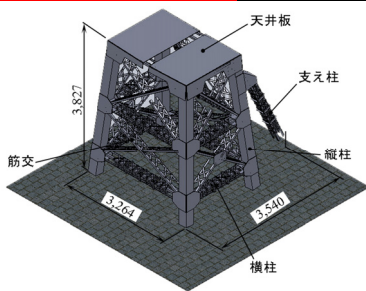
SHINOZAKI Akira, TASHIRO Naoyuki, NAKAYAMA Kensaku, ISHIBASHI Daisaku and ISHIKAWA Takashi

2011年7月に荒尾市から、市制70周年を記念して万田坑に残る「第二堅坑やぐら」をモチーフにしたモニュメントを荒尾駅前に製作するという企画が提案された。そのモニュメント設計を有明高専機械工学科で行なわれる卒業研究の1つのテーマとして実施しようと決めたのが本研究の始まりである。

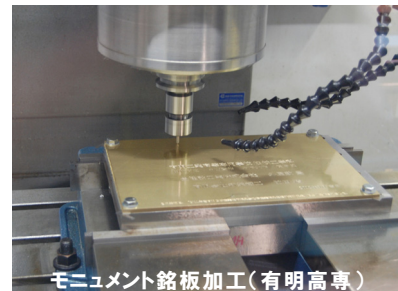
[1]現地・実物調査 (2011年8月) モデルを作るために実物を調査し、ラティス構造を3D-CADで再現した。



[2]モニュメントの設計 (～2011年11月) 3ヶ月でスケール1/5のモニュメントを設計し、荒尾市長に説明した。



[3]モニュメントの製作 (～2012年3月) 新栄鐵工、豊建設工業(荒尾)、九州オーエム(長洲)によって施工された。



[4]モニュメントの完成 (2012年4月) 高さ4m、総重量4tonのモニュメントが荒尾駅前に設置された。



この取り組みで設計・製作したモニュメントは、高さ4m、総重量約4ton、部品点数860点の鉄骨構造である。モニュメントの製作には、荒尾市役所、有明高専、新栄鐵工、豊建設工業、九州オーエムという『地元の技術』を結集して取り組んだ。開鉱以来103年の歴史を持ち、地元の歴史の1ページを作った『炭鉱技術』を表すモニュメントを製作するにあたり、有明広域産業技術振興会より御支援を頂いたことに、心から謝意を表す。